令和５年３月発行

やまがた 元氣 **農の風** NO.26

山形県山形市

株式会社 虹の森ファーム

もりや きよし
森谷　潔 さん

ＪＡ全農山形ベジフルハウスで
トロ箱養液栽培システムを導入し
「ミニトマト」（アンジェレ）を生産しています。

就農のきっかけをお聞かせください。

画像上：ベジフルハウス（外観）
画像中：液肥混入装置と液肥タンク
画像下：発泡スチロール栽培槽と園芸用培土

山形大学農学部卒業後、農業関係会社へ就職しました。家業である農業［野菜33アール（ハウス13アール・露地20アール）・水稲1.5ヘクタール］の担い手として「法人化」を行い就農し、農業関係者から聞いた「ベジフルハウス」に興味を持ちました。全農山形が行政等関係機関の支援を受けて整備した「ベジフルハウス２棟６アール」を当社が借り受け、トロ箱養液栽培システム「うぃずOne」を導入し令和４年度から全農オリジナルブランド「ミニトマト（アンジェレ）」の栽培を行っています。

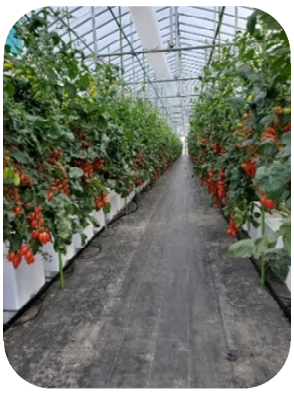
「ベジフル」とは、
ベジタブル（野菜）とフルサポート（全面支援）
を組み合わせた名称を意味します。

森谷　潔 氏

就農してみていかがですか。

初めての「ベジフルハウス」でのミニトマト栽培・・・収穫期前半の収穫量は県平均を上まわりましたが、「夏場に病害虫の発生」や「栽培管理のミス」等により樹勢が弱まり、高値安定期に収穫のピークを合わせられず収穫期後半の収穫量が伸びなかったことが反省点です。

「ベジフルハウス」を借り受けたことで農業経営の幅が広がったこと、また、近隣市町からの若手農業者を雇用し、作業を通して情報交換することで、双方の農業技術の向上や農業者間の繋がりも強くなったと感じています。



赤く色づくハウス内の
ミニトマト（アンジェレ）
［写真提供
（株）虹の森ファーム］

今後の目標や将来展望をお聞かせください。

１年目の反省点を改め、２年目は自分のベジフルハウスに合った栽培管理を研究しながら、高値安定期に収穫のピークを合わせ、令和５年度の「ミニトマト（アンジェレ）」の**『収穫目標６トン／10アール』を目指したい！**

農業を行う中で、生産者同士や、生産者と消費者、市場関係者など人と人との繋がりを大切にしながら、ストレスフリーの農業を行って行きたいです。

ミニトマト
（アンジェレ）
［写真提供
（株）虹の森ファーム］

東北農政局 山形県拠点 地方参事官室
TEL:023-622-7231／FAX:023-622-7256